

KSKP

障害者情報クラブ ニュース

第9号

障害者プランと 自立生活センター

代表 井上 聖

色々な所でよく「ノーマライゼーション」(ノーマリゼーションともいう)といふことばを耳にされることと思います。特に一九九五年十二月、総理府障害者対策推進本部から出された「障害者プラン」が別名「ノーマライゼーション七ヶ年戦略」とされていることを御存じの方も多いことでしょう。この「障害者プラン」については後述することにして、そもそも、この

「ノーマライゼーション」ということばの語源は何なんでしょうか。時は一九五〇年代、N・E・バンク・ミケルセンによつて提唱された理念が「ノーマライゼーション」の始まりとされています。ミケルセンはナチスが結成されたと同じ年、一九一九年にデンマークに生まれました。やがて、第二次世界大戦がおこり、デンマークはナチスによ

つて占領され、レジスタンストとして活動していた若きミケルセンは、強制収容所にいれられました。終戦後、厚生省の役人になつた彼は、施設の知的障害者の生活が収容所の生活と同じく人権が尊重されていないことを感じます。

彼は次の様に語っています。

『障害があるからといって、社会から阻害される理由はないのです。たとえ身体的には知

的な障害があつても、彼は一個人の人格を持ち、障害がない人と人間として何ら変わりないのであります。障害がある者が、社会で日々を過ごす一人の人間としての

「生活状態」が、障害のない人々の「生活状態」と同じであることは、彼の権利なのです。

ですから可能な限り同じ条件の下に置かれるべきです。そのような状況を実現するための生活条件の改善が必要です。それを表現する言葉として「ノーマ

ライゼーション」という語を用います。彼らの人としての権利が実現するような社会の状態をつくりだしていかねばならないのです。』

やがてデンマークでは、この理念に基づき、法案が作られ、「ノーマライゼーション」は新しい福祉の思想として世界中に広がつてゆきます。そして一九六六年には国連の「精神薄弱者権利宣言」、同七年には「障害者権利宣言」が出され、一九八一年は「国際障害者年」となつて、国連は世界各国に障害者差別の完全撤廃と障害者福祉の完全実施を呼びかけました。

一九八三年には「国連障害者の十年」がスタートして、その動きを受けて、アメリカでは一九九〇年に「障害を持つアメリカ人法(A.D.A.)」が公布され日本でも「障害者プラン」が出されたわけです。

障害者プランは次の七つの基

本的な考え方から成り立つています。

- ① 地域で共に生活するために
- ② 社会的自立を促進するため
- ③ バリアフリー化を促進するため

- ④ 生活の質 (QOL) の向上を目指して
- ⑤ 安全な暮らしを確保するため

- ⑥ 心のバリアを取り除くために
- ⑦ 我が国にふさわしい国際協力

・国際交流を

そして、緊急に整備すべき目標の一つとして、障害者の総合的な相談・生活支援を地域で支

える事業を概ね、人口30万人当たり2ヶ所実施するとしています。これが今、私達が注目している障害者自立生活支援センターの一つです。

特に、自立生活支援センターの大きな特色は、ピアカウンセリング（地域すでに自立した生活を実践している障害者が力になるものです。この事業は、在宅障害者に対し在宅福祉サービスの利用、社会資源の活用や社会生活を高めるための支援、ピアカウンセリング、介護相談



□ 関連中の井上代表

及び情報の提供等を総合的に行

うことにより、障害者やその家

族の地域における社会参加の促

進を図ることを目的としていま

す。障害者自身が主体となつて運営するものでなければなりません。この事業は、市町村が法人等に委託できるものとしていますが

ズを十分に把握する上でも、障

害者自身が主体となつて運営するものでなければなりません。

この事業は、市町村が法人等に

委託できるものとしていますが

一九九六年には全国にすでに

十六の自立生活支援センターが

オープンし、そのうちの何ヵ所

かは、法人格のない障害者団体

が直接委託を受け、運営にあた

っています。厚生省もこのよう

な当事者主体の動きを歓迎して

います。

障害者情報クラブも発足後十

年にわたり地域の障害者のため

問題などについて、解決にあります。

と、自立生活プログラム（家族関係、人間関係、介助

サービスと介助者、健康管理、家庭管理、金銭管理、生活情報

の活用、人生設計などの社会生

活を高めるためのトレーニング

プログラム）にあります。そう

考えると、自立生活支援センタ

ーが障害者及びその家族の二

人を十分に把握する上でも、障

害者自身が主体となつて運営す

るものでなければなりません。

この事業は、市町村が法人等に

委託できるものとしていますが

一九九六年には全国にすでに

十六の自立生活支援センターが

オープンし、そのうちの何ヵ所



□ みんなでお買い物



□ カメラ向けちゃ、ダメツ!

1993年度より始めた介助者養成講座「街へ出かけ隊」は1996年度も継続して行っています。特に本年度は介助者の養成のみならず、障害者の自立生活プログラムに重きを置き、介助者を自分自身でコーディネートしながら外出できる人々が増えました。また障害者政策研究第2回全国集会には、宝塚市福祉推進課課長の松藤聖一氏を招き、宝塚市の障害者施策長期推進計画を中心とした公演いただき、活発な意見交換が行われました。また日本でまだ8頭しかいない介助犬と共に暮らしている当会員の木村佳友氏が、ビデオを通して日常生活を紹介、障害者の自立における介助犬の普及の必要性を訴えました。

1993年度より始めた介助者養成講座「街へ出かけ隊」は1996年度も継続して行っています。特に本年度は介助者の養成のみならず、障害者の自立

生活プログラムを経験することができます。泊を伴う介助を経験することは大きな成果となりました。

1997年1月の新年会をかねた講座には40名が参加し、中華料理を食べながら話も弾みました。

また、続く2月の講座では、

究第2回全国集会の際には、宿泊を伴う介助を経験することができます。

(一九九六年)

★七月二十七日(土)

街へ出かけ隊⑨ 川西方面

食事と外出の介助演習および自立生活プログラム演習

★十一月三十日(土)～十二月一日(日)

障害者政策研究第2回全国集会

宿泊介助講習

(一九九七年)

★一月十八日(土)

街へ出かけ隊⑩ 川西アステ

新年会を兼ねた介助演習および自立生活プログラム

★二月十五日(土)

街へ出かけ隊⑪ 市総合福祉センター

◎講演「宝塚市の障害者施策長期推進計画」について

講師 松藤聖一 氏

(宝塚市福祉推進課課長)

◎講演「介助犬について」
講師 木村佳友 氏 (当会会員)

介助者養成講座

街へ出かけ隊

今後も、介助者の養成と障害者の自立生活プログラムを推進するため、「街へ出かけ隊」を継続していく予定ですので、御支援のほどよろしくお願ひ致します。

活動報告

全身性障害者

介護人派遣事業について

西宮市に次いで宝塚市に介護派遣制度ができて2年になる。

私はできた当初から利用しているが、すばらしい制度だと思っている。私みたいな、山奥の施設から出てきたばかりの者にとって一番困ることの一つが介護人探しである。対人関係を作るのが難しい上、友達ができるとしても、トイレや風呂の介助までは頼みにくい。その点、この制度を介してなら、介助料も出るし、気軽に頼むことができる。



私は障害者情報クラブのディネーターのもと、この制度を円滑に利用しているが、よりこの制度が機能するために、宝塚市にも自立生活支援センターができることが待たれる。

(広内記)

介助者大募集!

障害者情報クラブへいらっしゃい!

あなたも、ボランティアやアテンダント(有料介助者)をやってみませんか? 障害者情報クラブでは、いろいろな講習会を開催しています。また様々な障害を持った会員の人たちと、外出や宿泊などの経験を通して、楽しみながら介助の知識や技術を身につけて頂きます。詳しくは、下記事務局までお問い合わせください。

障害者情報クラブ事務局

宝塚市平井2丁目15-1

TEL 0797-88-4329

FAX 0797-88-0779

e-mail : sakaue@butaman.ne.jp

駅にエレベーターがないこと

駅、それは鉄道の止まるところ、そして鉄道は公共の乗り物である。公共物は誰もが使えるものでなければならないはず。

そこにエレベーターがないことは何を意味するのか。

それは、車いす利用者の単独乗車を拒否しているのと同じ。だから、誰もが使えるものではない。すなわち、矛盾だ。それにエレベーターは車いす利用者にとってだけ便利なものではなく、歩行障害者・お年寄り・け

がをした人・疲れている人・子供連れ・妊婦と幅広い人に便利なものとなるだろう。

公共物とは何だろう？ それ

は、誰もが共通して使えなければならぬものと私は考える。

今、日本にある駅はどうだろうか。はたして誰もが使えるものであろうか？ 高い位置にある券売機、人が立つてやつと通れるようない狭い改札、ホームにいくまでの段差、誰もが使えるようなト



Ireneがないようなところを世間では公共物といっている。公共物という限りは誰が使ってもいいはず。そうであるのに、駅員さんは拒否をする人、いやいや助ける人が多い。それは何故か？

公共物といっている限り乗車拒否はできない（実際にはよくあるが）、かと言つて車いすを持ち上げるのは面倒だからと思う。それでは、車いす利用者・駅員のお互いのためにエレベーターを設置するほうがいい：と考えるが、最近では駅員さんは設置を望んでいるがつかないところも結構ある。それは、実際設置する権限のある人が介助するわけではないからだ。

そこで駅員さんの中にも、本社に要望書を書いて欲しいとか、運動を起こして欲しいとか、昔からは考えられないようなことをいう人も数は少ないながらもいる。

Ireneがないようなところを世間では公共物といっている。公共物といいう限りは誰が使ってもいいはず。そうであるのに、駅員さんは拒否をする人、いやいや助ける人が多い。それは何故か？

公共物といっている限り乗車拒否はできない（実際にはよくあるが）、かと言つて車いすを持ち上げるのは面倒だからと思う。それでは、車いす利用者・駅員のお互いのためにエレベーターを設置するほうがいい：と考えるが、最近では駅員さんは設置を望んでいるがつかないところも結構ある。それは、実際設置する権限のある人が介助するわけではないからだ。

そこで駅員さんの中にも、本社に要望書を書いて欲しいとか、運動を起こして欲しいとか、昔からは考えられないようなことをいう人も数は少ないながらもいる。

もちろんエレベーターがついたぐらいで誰もが使えるものになるとは私は考えていない。でも、それに近づけることが必要だと思う。

*荷物用エレベーターは含まれない。あれは、エレベーターとは私は認めない。

以上のことと3月から行動にうつそうと思い、とりあえずは私の最寄り駅であるJR宝塚駅にアクセス権を求めて運動を起こうと考へています。（これを読む頃には起こしている最中かな）とりあえず、一度は駅員さん・JR西日本本社・大阪支社に一人で乗り込んでこようと思つていてますが、それ以降は賛同していただける方と一丸となって運動していきたいと考えていますので、賛同していただけの方、また知恵を貸してくれる方はご協力お願いします。

（増田記）

会員の声

★2月15日の講義について
僕は直接、障害者に対する市の考え方を聞いたのは初めてです。母にはいつも聞かされたのですが、今一つピンと来ませんでした。でも、お話を聞かせてもらつて、良い勉強になりました。

自立生活支援センターが、もうすぐ出来るという人は素晴らしい事ですし、グループホームも出来るというのは、夢のような話です。

自立生活はグループホームや一人暮しだけではなく、いろんな選択肢があるのが良いと思います。
介助犬については、僕にとっては不向きだと思います。犬がフロッピーディスクを取ってくれたとして、ケースを開けることすら出来ない僕は、どうす

る事も出来ません。

フロッピーを取り出し、パソコンに出し入れができるような

介助猿のようなものが欲しいなと思いました。(岸 洋一)

★楽しかった新年会

みんなで食べた中華料理

最初は大人ばかりの新年会へ行くのは気が引けた。でもうま

いもんたべるとあつてだんだん楽しみになつてきた。

中華と言えば、家族で行くマ

ルビルの中にある店を思い出しまで、あまり中華というイメー

ジはしなかつた。前菜は結構食べていて。なんばでもいけると思つていたが、若いからといって、いろいろともらつて食べ

いたら、料理の回転がおそいで、満腹になつてきた。そして途中で食べるのが大変になつた。今度行く時は考えて食べようと思つた。

周囲の人達ともう少し普段の生活などの色々な話ができたらよかつたなと思いました。

結構楽しく食べれたと思う。また、企画してね。

(中2・高松)



『うつ、うま~いつ!

★第2回障害者政策研究

全国集会に参加して

昨年、十一月三十日～十二月



『今日の中華は格別だ

一日の両日、第2回障害者政策研究全国集会が神戸市北区にある「しあわせの村」で開催されました。一日目は全体会、レセプションと行われました。全体会では、阪神・淡路大震災で全壊になつた、地下鉄長田駅を紹介するビデオが流れました。

山本一朗先生による摂食講習風景



大阪の豊中市で市議会議員をやつている女性の方(障害者)、西宮市で生活保護を利用し、自立生活をエンジョイされている皮肉さを感じました。

震災前はエレベーターがなかったのですが、震災後、駅が復旧するときにエレベーターを設置することになり、今では誰もが使える駅になつたということです。地震は大きな被害をもたらしましたが、古い設備や古い建物が新しいものになり、使いやすくなつていくのを見ると皮肉さを感じました。

障害者の集会には何度も行つたことはあるが、「やはり問題はそう変わるものではない」というのが本音です。すなわち、エレベーター・まちづくり、自立生活……といろんな問題があるけれども、何も解決したものはなく、変わってきたのは、昔なら外出するのもままならない障害者がまちづくりやエレベーター設置の問題が大きかつたのが、段々時代の流れによつて、

方などの話を聞いて、私ももつと生活を充実していきたいと思いました。
(広内記)



私は、この集会の「まちづくり」の分科会に出て「JR新長田駅にエレベーターがついた」とか「JR尼崎駅に最初はエレベーター設置の予定がなかつたと新聞発表されたものを障害者運動によってひっくり返しエレベーター設置を勝ち取つた」ということを知り、JRに対してもう一つ運動をしていくこうと思い立つたのです。

今後もこういつた集会があちこちで行われると思いますが、一人でも多くの人が参加し、問題のあることを知つてもらいたいと思う。

(増田)

★「ピア・カウンセリング
長期講座」に参加して
先日、情報クラブからピア・
カウンセリング長期講座に参加

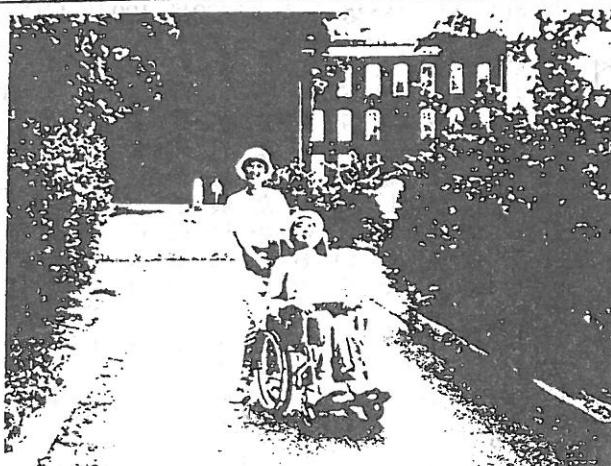
次に自立問題に着眼点が集まつて、問題は少しも解決されないまま増えていつていると思います。

(広内記)

してきました。講座は2月に2泊3日(前期)、3月に2泊3日(後期)、合計40時間受けなければならぬというハードなものでした。

ピア・カウンセリング(ピアクアン)の「ピア」というのは、「仲間」という意味です。つまり、ピア・カウンセリングというのは、障害者がお互い日頃圧されている気持ちを表に出すことにより(自己解放)、簡単に言えばストレスを発散させるものです。カウンセリングといつてもアドバイスはしません。相手が自己解放しやすいように持つていくだけです。ピアクアンはアテンダント(有料介護者)紹介事業、ILP(自立生活プログラム)と並び自立生活支援センターには必要なものです。まだまだ分からぬこともありますが、これからも取り組んでいきたいと思っています。

(広内記)



ジョージア大学構内にて（後は姉）

私が海外旅行を具体的に意識し始めたのは、大学図書館にあつたある本との出会いからである。その日もいつもの様にエレ

吉川克之

ベーテーで図書館二階にある開架室に行き、新着図書コーナーを見に行つた。何か面白い本はないかと見ていると、「障害者

アクセスブック海外旅行編」（草薙威一郎・馬場清編）という本が目にとまつた。早速借りてみるとこの本は「旅は人権」と言う基本理念の下、障害者の海外旅行の体験談や実際的な旅行のノウハウが詳しく紹介してあつた。これを読んで私のような重度障害者でも海外旅行が出来るのだと言う希望が湧いて來た。

ただ、一日中バスに乗つて観光地巡りをするといつた観光ツアーは、私が参加されるというので、これ

にはとても体力的に無理だと思つたので、一ヶ所に滞在し外国人とも交流出来るような旅行がしたいと思つていた。

そんな時にインターネットを通じて電子メールで一九九三年八月にアメリカのジョージア大学で相幾何学の国際学会が開催されるというアナウンスが届いた。インターネットというのは世界中のコンピューターネットを結ぶネットワークで約150ヶ国・地域の300万台以上のコンピューターが接続されている。航空便では最低でも十日かかるつていたのが、これを使うと外国とでも一日でメールを交換することが出来る。以後、ジョージア大学のオーガナイザーとの連絡は、参加申し込み、宿泊の手配や学会のプロシードィングの原稿の投稿までも、すべてこの電子メールを使って行つた。関学からも樹下眞一先生が参加されるというので、これ

初めての海外旅行

吉川克之

は良い機会なので私も参加することにした。介助者の問題も母だけでは無理であつたが、姉が心良く引き受けてくれたので解決した。また、航空会社は日本からアトランタまでの直行便を唯一飛ばしている日本のN航空に決めた。

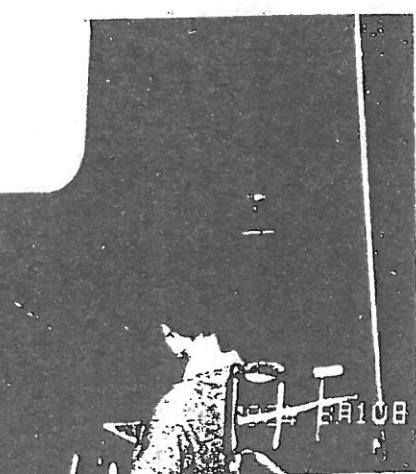
さて、いよいよ出発当日（八月八日）朝七時三十分、福扯タクシーで家を出発、大阪空港に向かう。途中渋滞もなく無事大

阪空港に到着。空港のチェックインカウンターで搭乗手続きを終ると、私の車椅子は飛行機に積み込むので、ここからは空港の車椅子に乗り換えて欲しいと言われた。私は筋力が殆ど無い為、自分専用の車椅子でないと安定して乗ることが出来ない。例えは座布団の厚みが違つても体のバランスをとる事が難しいのに空港のバギー車の様な車椅子に安定して乗るのは無理である。実はこの件については、

事前に何度も交渉していたのが、結局無理だと言う事だつたので、その日も少し粘つてはみたが諦め、体を支えてもらいたが何とかその車椅子で機内の座席まで辿り着いた。ところがアメリカの空港では、国内線を含めて計4回飛行機に乗降したが、いずれの場合も飛行機の搭乗口まで自分の車椅子が使えた

(しかもN航空の場合でも)。さらに驚いたことに大阪空港に帰つて来て、降りる時には飛行機の搭乗口まで私の車椅子を持って来てくれていた(降りる時は良い?)。だから、これは航空会社というより空港のシステムの問題かもしれない。さて、成田でアトランタへの直行便JAL020便に乗り換

え、約十三時間の長いフライトが始まつた。これから十三時間、トイレをどうするかが私には大問題であつた。機内用車椅子が積んであると言うが、それでトイレに行けたとしてもトイレは非常に狭いので、介助してもらいながらはとても使えそうに無かつた。



10月10日



そこで前日から水分を控え、機内食も水気の多い物は極力食べないようになっていた。しかしフライドも半ばに差し掛かった頃とうとう我慢出来なくなり、用意していた携帯用ミニトイレを座席に坐つたまま毛布で隠して密かに使う事になつた。携帯用ミニトイレと言うのは、ビニール製の袋の中に白い粉末が入つてその中に**をするとすぐにゼリー状に固まり、臭いが全くしないという物である。

講演会場にて
しかし緊張と慣れない為か、なかなか出ない。また、そうとが「何か御用はございませんか？」と親切に言つてくれたりするのでおさらである。そこで機内用車椅子を持って来てもらうと便座に坐り、用を足す事

が出来た。帰りはサンフランシスコからだつたので時間が短かつた事もあり、機内トイレを使用したのは、この時だけであつた。

こうして決して快適であるとは言えない長いフライトを楽しんだ(?)後のアメリカでの十日間は本当に快適であつた。殆どをジョージア大学の構内で宿舎と講演会場を往復していたのであるが、その往復には、毎日リフト付きパンが送迎してくれた。このサービスは一般の学生の通学に対しても行われているとの事であつた。キャンパスが広いので、無料の構内バスが運行されているのであるが、その構内バスも3台に1台はリフト付きバスであった。また、大学の全ての建物には必ずスロープがありリフトが設置されていたので何ら不自由を感じなかつた。日本ではまず車椅子で行けるかどうかが問題となるが、アメリカ

では車椅子で行けることは当然の事とし、どこに行きたいかを考えれば良い。この違いは大変大きいものである。

旅行は多くの研究者とも交流ができ、またジョージア大学のホームパーティにも呼んで頂き大変有意義な旅であつた。

ビッグ・ニュース!

吉川さん、おめでとうございます。

当情報クラブの会員として、会計を担当して頂いてます吉川克之さんが、この度、日本数学学会の第一回建部賢弘賞を受賞されました。同じ情報クラブの会員として、たいへん誇りに思ふとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

難病と闘いながら研究

同賞は若手数学者の奨励賞で、「全く思いがけなかつた」という。筋肉が委縮していく難病「筋ジストロフィー」と闘いながら研究を続ける関西十一歳から重い生活。高学年物理学部非常勤講師の吉川克之さん(西宮市)のほうも、『数学を学べて、自覚め、「数学を学べて、自由にも近い」関学へ。一九八〇年日本数学会の第一回建部賢弘賞を受賞した。江戸八五年に理学博士を取得し

プロフィール

一九五四年十一月二十二日西宮市生まれ。筋ジストロフィー症により、小学五年生より車椅子生活となる。

一九七八八年関西学院大学理学部卒業。

一九八〇年同大学大学院博士課程前期課程修了。

一九八六年より同大学大学院非常勤講師となる。

一九九七年日本数学会第一回建部賢弘賞を受賞。

専攻は数学。障害者情報クラブ会員。理学博士。



□一月八日付け読売新聞夕刊より転載

介助犬（シンシア）について

介助犬レシピエント・木村佳友

1. 介助犬とは

盲導犬が目の不自由な方のパートナーであるように、介助犬は身体の不自由な方の生活をサポートするパートナーです。車いすを引く、立ち上がるとき・起き上がるときの支えになる、落としたもの・切符・財布（お金）などをくわえて渡す、ドアの開け閉めをするなど、動作介助をするように特別のトレーニングを受けた犬が介助犬です。

介助犬発祥の地アメリカではすでに二十年近い歴史があり、現在数十の育成団体があり、千頭以上の介助犬が活躍しているということです。

日本では、一九九二年に育成が始まつたばかりで、東京や京

都に民間の育成団体が数ヵ所あるだけで、育成費、トレーナーの養成なども課題であり、トレーナーの数も不足しています。育成費が、実費だけでも一頭三十万円、人件費も含めれば百

万円以上を要し、訓練にも時間がかかるうえ、まだ知名度が低く、全国に数頭しかいない状況です。

2. シンシアの仕事

シンシアはクアードドッグに分類されます。トレーニングの結果、シンシアは英語と日本語を合わせて四十から五十の単語が理解できる様になりました。床に落としたフロッピーディスク

飲食店やホテルでは入店や宿泊を断られることもあります。一つたり、冷蔵庫のドアについた紐を引っ張って開け、中のものを取り出したりしてくれます。スーパーの買い物にも同伴して商品を棚から取つたり、レジでは品物や財布の受け渡しをしたりしてくれます。シンシアは、手指の動かない私の不自由な生活を手助けしてくれています。

示した物をくわえて渡したり、着替え（脱ぐときだけ）を手伝つたり、冷蔵庫のドアについた紐を引っ張つて開け、中のものを取り出したりしてくれます。スーパーの買い物にも同伴して商品を棚から取つたり、レジでは品物や財布の受け渡しをしたりしてくれます。シンシアは、手指の動かない私の不自由な生活を手助けしてくれています。

3. お願ひ

介助犬は障害者にとつて身体の一部です。今まで外出が困難だつたり、生活が不便だつた人が、介助犬を得ることにより、より良い生活を送ることができます。

介助犬は、吠えたり噛みついたりしないようトレーニングしていますし、メディカルケアを含めて常に清潔であるよう心がけていますが、日本ではまだまだ介助犬についての理解が浅く



飲食店やホテルでは入店や宿泊を断られることもあります。一つでも多くの介助犬が、障害者のもとで活躍し、一緒に歩く姿が自然な光景になるよう、皆様の介助犬に対する理解と協力をお願いします。

最後に介助犬を見かけても、食べ物を与えた後、急にさわつたりしないでください。彼らは「仕事」をしている最中ですので、静かに見守つてくださるようお願いします。

うれしい情報掲示板

障害者へのレンタカー料金を 50%割引でサービス

オリックス・レンタカー株式会社(資本金・6億円、社長・横山和夫氏)では、昨年の7月29日から身体障害者、精神薄弱者及び児童福祉法適用者に対し、レンタカー料金の50%割引が実施されています。割引されるのは、障害者本人が運転する場合と介護人もしくは付添人が運転し、障害者が同乗する場合のいずれかとなります。障害者本人もしくは介護人、付添人が身体障害者手帳、精神薄弱者療育手帳、被救護者旅客運賃割引証のうちいずれかの提示が必要です。当情報クラブでは、手動式のアクセル・ブレーキ装置など障害者が直接使用できる車の導入についても申し入れています。

お問い合わせ先

オリックス・レンタカー株式会社

営業推進部 営業企画課(須田様) ☎ 03-3779-3998

阪急電鉄主要駅に 無料ファックス

阪急電鉄の主要16駅には聴覚・言語障害のある方の為に、送・受信とも可能な無料ファックスが設置されています。設置駅は下記の通りです。設置場所についてはマークのついた表示板がかかっていますが、わかりにくければ駅員さんにお尋ねください。身体障害者手帳の提示が必要です。一般の方の利用は1回100円です。

阪急梅田・十三・淡路・茨木市・高槻市・桂・河原町・
豊中・石橋・川西能勢口・宝塚・塚口・西宮北口・夙川
・阪急三宮・北千里・

うれしい情報掲示板

青い鳥郵便葉書の無料配布

1級・2級の身体障害者手帳をお持ちの方で希望される方は、内田悦代さん原画による青い鳥郵便葉書(50円)の配布が受けられます。

〈受付期間〉平成9年4月1日(火)～平成9年6月2日(月)

〈配布枚数〉一人20枚

〈申込方法〉お近くの郵便局窓口で、身体障害者手帳を提示し、所定の用紙に必要事項を記入の上申し込んでください。代理人でも可能です。用紙は、郵便局又は福祉事務所の窓口に備え付けられています。又、適当な用紙に本人の手帳番号、級別、住所、氏名、青い鳥郵便葉書希望と書いて住所を受け持つ集配郵便局に郵便で申し込むこともできます。視力障害の方のために葉書の上下・表裏が分かるように表側左下の一部に半円形のくぼみを入れたものもありますので、希望される方はその旨ご記入ください。

〈配布の方法〉発行日(平成9年4月21日)以降、集配郵便局より郵送されて来ますが、発行日以降に集配郵便局へ直接申し込んだ場合は、その場で配布されます。

宝塚市内車いすアクセス情報

【エレベーター&車いすトイレのある施設】

小浜小・長尾小・宝塚小・安倉小・宝塚第一中・長尾中・御殿山中・養護学校・中山台コミュニティセンター・宝塚市役所・中央公民館・東公民館・西公民館・中央図書館・西図書館・宝塚市立病院・市立体育館・市立クリーンセンター・市立健康センター・総合福祉センター・安倉デイサービスセンター・光明デイサービスセンター・逆瀬台デイサービスセンター・池ノ島デイサービスセンター・市立女性センター・市立教育総合センター・市立療育センター・ステップハウス宝塚・手塚治虫記念館・市立温水プール・ソリオホール・宝塚西武、アピア名店街・ジャスコ、アピア3・コーパス宝塚・宝塚ホテル・ワシントンホテル・宝塚ファミリーランド・第一病院・希望の家ワークセンター・若水ホテル・阪急宝塚駅・宝塚大劇場・宝塚警察署・宝塚阪急・阪神仁川競馬場

【車いすトイレのある施設】

良元小・仁川小・未成小・美座小・中山五月台小・丸橋小・安倉北小・すみれが丘小・山手台小・宝塚中・山手台中・西谷中・宝梅中・中山五月台中・光が丘中・小林聖心女子学院・看護専門学校・山手台中央公園・上ノ池公園・ゆずりは緑地・阪急中山駅前公衆便所・武田尾公衆便所・ベガホール・雲雀丘出張所・うどん亭・宝塚育成事業所・宝塚市農協西支所・BOOK PLAZA・阪急電鉄小林駅・山本駅・雲雀丘花屋敷駅・宝塚南口駅・壳布神社駅・中山寺・双愛整形・ピックリ ドンキー・造形芸術大学・大阪市健康保険組合・石田歯科・コーパス仁川・レストラン BIG BOY

うれしい情報掲示板

(JRに比べて)阪急電鉄はこ～んなに便利!!

宝塚市内の各駅の車いすでのアクセス状況 一パート1-

構造評価 (駅員の対応などは考慮にいれない) ----- A : エレベーターまたはスロープで改札を通って出入りできる / B : Aで改札口の幅が狭い、あるいはそばの別扉からの出入り / C : エレベーターまたはスロープで改札を通らずに入り / D : エスカル、エスカレータ、階段昇降機を利用 / E : 階段のみ

【今津(北)線】

*仁川(にがわ) 西宮北口方面「C」・宝塚方面「C-」

●相対式で、両ホームとも西宮北口側の端にスロープがあり、インターーンがついている。宝塚方面ホームの入口付近は、歩道にバリカーがあり、さらにその歩道上に放置自転車があるので近寄りにくい。両入口とも雨を避ける場所はない。

改札は地下で階段のみ。仁川駅前震災復興再開発での身障者対応改装は未定。

●渡し板有り

*小林(おばやし) 西宮北口方面「B」・宝塚方面「B」

●相対式。西宮北口方面ホームの西宮北口側に改札があり、外からはほぼ平ら。改札から西宮北口方面へは緩やかなスロープ。宝塚方面ホームへはさらに身障者対応エレベーターを乗り継いで行ける。

●渡し板有り

*逆瀬川(さかせがわ) 西宮北口方面「C」・宝塚方面「C-」

●相対式で、両ホームとも宝塚側から2両目あたりにスロープがあり、インターーンがついている。宝塚方面のスロープは折り返しの踊り場が狭く、電動3輪では曲がり辛い。改札は2階で階段とエスカレータ。もっとも宝塚よりの西側に、改札階へのエレベーターがあるが、車いすでは入れない。隣接するアピア1の3階から改札へは繋がっているが階段のみ。

●渡し板有り

*宝塚南口(たからづかみなみぐち) 両方面「C+」

●相対式。地上から2階の改札へは、宝塚ホテル側の歩道脇にあるエレベーターで行く。まず、インターーンを鳴らすと、駅員がモニターを見ながらリモコン操作でエレベーターホールへの扉が開く。続いてエレベーターが降りてくるのでそれに乗り、改札階で降りる。改札を終了したら、西宮北口方面はもう一つのエレベーターで、宝塚方面は同じエレベーターでホームへ向かう。エレベーターはいずれも身障者対応。他にエスカレータと階段がある。

●渡し板有り

★構造的にエレベーター設置は困難と思われていたが、阪急電鉄の努力と当クラブのアイデアで設置に漕ぎ着けた。

うれしい情報掲示板

【今津（北）線・宝塚線】

*宝塚（たからづか） 両線「B+」

●1番線・今津線準急、2番線・今津線普通、3および4番線・宝塚線。1・2番線、3・4番線がそれぞれ島式ホームで、終点がホームで繋がっている。3階のホーム階から改札階へは身障者対応エレベータが各ホームに1基ずつ。他にエスカレータと階段。

●渡し板有り

●改札から外へは、様々なルートがあります。

①改札そばのエレベータで、地上へ出れば宝塚グランドホテル方面に便利。3階へ行けば、JR駅前へエレベータで、あるいは歩道橋でソリオきたの2階へ。

②もう少し進んで、自動販売機スポット横のエレベータで、地上へ出れば身障者用駐車スペース、タクシー乗り場、横断歩道。1階へ降りれば、観光案内所、ソリオ2・3などへ。1階へは他にエスカレータと階段がある。

③さらに進んで、Gコレクション入口の外、左奥にあるエレベータでは、2と同じ1階と屋上駐車場へ。

④さらに進んで、突き当たりを左折したところにはGコレクション1階入口や歩道と繋がるエレベータ。エレベータに乗らずに歩道橋を渡ると、駐車場棟ソリオ4。さらにJRを越えて児玉病院方面へ。

⑤Gコレクション2階からパン屋さんの右側の重い扉を開けるとソリオ1のエレベータ（身障者対応は2基中1基）。G階からは花の道方面へスロープで。

⑥ソリオ2の2階へは、6段の階段。

宝塚市内の阪急の駅は地上駅が多く、それがアクセスにいい影響を与えていることは間違いないが、その反面、駅周辺の整備ができていないため、ホームから直接外へ出ることで雨を避ける場所がなかつたり、駅のそばの交通量の多い狭い道を結構な距離移動しなければならなくなる。阪急電鉄は、日本国内の私鉄でも圧倒的にたくさんの使いやすい駅を持っているが、最近、近鉄の整備ペースが急激に伸びてきたためにアクセス率トップの座を脅かされている。今後、再開発などを契機に、さらに使いやすい駅を増やしていくもらいたいものだ。それとは逆に、整備の行き届いている阪急、近鉄、神戸市営地下鉄での駅員の対応の悪さが京阪や大阪市営地下鉄に比べて目立つようになってきた。施設の充実に驕らず、安全第一で対応してもらいたいものだが今の状況のままでは、駅員の対応の悪さピカイチの山本駅（詳しくは次号にて）など、事故発生は免れないだろう。

そうなった場合、駅員個々の資質を問うだけでいいのだろうか。次回は宝塚線清荒神、売布神社、中山、山本について、JRとの比較なども交えて報告する。

（文責：事務局）

寄付をお寄せ頂いた皆さん
ありがとうございました。

(善意銀行)アピ
ア3店舗会様／尾崎様／小中
正一様／藤本奈津子様

●一九九六年 小林聖心女子学院様／山本一朗様／藤山辰次郎様／上代康治様／青木妙子様／平様／塩津様／友田様／井上治助様／井上信子様

●一九九七年

松藤聖一様／濱野矢代依

お願 い

震災以降、募金、バザーなど
の資金作りが困難になり、しかし
一方では、自立生活支援セン
ターの設立を目指して、研修や
介助者養成講座など、活動のほ
うは盛んになりました。障害者
情報クラブも1996年度はた

いへんな財政難になつております。
ノーマライゼーションを実現し、
障害者の社会生活を支援するため
に、皆様方より、賛助金(一回1000円、何口でも)
およびご寄付、またはバザー用
品の提供をお願いしています。
ご協力いただける個人及び団体
の皆様方は、お手数ですが左
記口座まで振込み、または事務
局までご連絡ください。

よろしくお願ひ致します。

郵便振替口座

記号 14360

番号 43110611

事務局

宝塚市平井2丁目15-1

TEL 0797-88-4329
FAX 0797-88-0779

☆編集後記

もう、春一番が吹いたそうです。昨年より十六日も早いそうです。日増しに春らしくなり、暖かくなつてきました。が、小生の懐は1年中冬。おまけに心も寒い。ああ、春は遠い。(広内記)

◆訃報

正会員の広瀬敦子さんが、
二月二十四日、お亡くなりにな
りました。いつも笑顔で、
バザーなどを担当して頂き、
他の会員からも慕われていた

広瀬さんでした。会員一同、
心からご冥福をお祈り致しま
す。(在りし日の広瀬さん) 向か
つて右側)



『KSKP 障害者情報クラブ』第9号 1997年4月27日発行

編集者 障害者情報クラブ事務局編集部

編集責任者 障害者情報クラブ代表 井上 聖

事務局 665 兵庫県宝塚市平井2丁目15-1

TEL 0797-88-4329 FAX 0797-88-0779(自動)

e-mail : sakaue@butaman.ne.jp

郵便振込口座

記号 14360 番号 43110611